

平成 30年度安全衛生管理計画

事業場名	藤井運送株式会社	労働者数	130 人 (うち自動車運転者数 105 人)	事業内容	一般貨物自動車運送業
所在地	井原市木之子町5481番地	TEL	0866-62-1572	報告者	部長 藤井 佳宏

労働災害発生状況	前年度実績	期間		死亡災害	休業災害		合計	延労働時間数	度数率	総括安全管理者 職氏名		代表取締役 藤井 和利		
		平成29年4月1日 から	平成30年3月31日 まで		4日以上	1~3日				安全管理者 職氏名	専務取締役 藤井 隆男			
				1 人	1 人	1 人	3 人	374400 時間	8.0	衛生管理者 職氏名	部長 藤井 佳宏			
目標値		休業災害 不休災害 一般定期健康診断有所見率		0人 0人 20%以下	休業無災害記録 平成 30年 1月 25日 から 平成 30年 3月 31日 現在		年間継続中 65 日間継続中 1560 時間継続中			産業医 氏名	-	小田 浩二		
安全衛生基本方針		<ul style="list-style-type: none"> 労働安全衛生マネジメントシステムを十分に活用し、安全で快適な職場環境の形成を目指す。 労働安全衛生マネジメントシステムの中核として、リスクアセスメントを積極的に推進する。 組織的な危険予知活動を強化し、社員、特に自動車運転者の安全意識の向上を図る。 適正な運行管理を行い、過重労働による健康障害防止を推進する。 				スローガン << おもいやり 運転 >> ~ 相手の立場にたって 気持ちを考える ~			リスクアセスメントの実施状況 <input checked="" type="checkbox"/> 実施済み (平成 18年 10月 1日より) <input type="checkbox"/> 実施予定 (平成 年 月 日より) <input type="checkbox"/> 実施予定 無		労働安全衛生マネジメントシステム導入状況 <input checked="" type="checkbox"/> 導入済み (平成 19年 7月 1日より) <input type="checkbox"/> 導入予定 (平成 年 月 日より) <input type="checkbox"/> 導入予定 無			
前年(度)の重点施策 反省、問題点等		評価 ○△×	今年(度)の重点実施事項											
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
労働安全衛生マネジメントシステムの構築 ・ほぼ計画通り実施されたが、取り組みがいまひとつ不十分であった。 ・推進委員会の活動が不活発	△	1、労働安全衛生マネジメントシステムの計画的推進 ・安全衛生方針の表明、目標の設定 ・システム推進委員会の開催と推進 ・安全衛生管理規則の改正(システムを具体的に規定) ・システム担当者等の教育訓練	方針、目標の表明 推進委員会の設置		推進委員会の開催						方針、目標の検討 最終検討		計画作成	
安全衛生管理体制の拡充 ・議題が少なく、討議が不活発である。 ・リスクアセスメントの見直し	△	2、安全衛生管理体制の充実 ・運営小委員会の設置と開催 ・年間安全衛生管理計画の作成 ・作業標準の見直しと整備(非正常作業を含む) ・リスクアセスメントの実施	運営小委員会の設立 計画の周知		運営小委員会の開催								計画作成	
荷役作業等の災害防止対策 ・荷役作業等の作業手順書が未作成 ・リスクアセスメントの見直し	△	3、安全衛生教育の計画的推進 ・リスクアセスメントの実施とリスクの除去・低減措置 ・ヒヤリ・ハット災害等の情報収集と改善対策 ・特定自主点検等の法廷点検の実施 ・トラック等の日常点検マニュアルの作成	リスクアセスメントの実施				安全方策の実施				ヒヤリ・ハット災害収集		防止対策の実施	
安全衛生教育の推進 ・社員の安全意識レベルが低い。 ・作業マニュアルが少ない。 ・各作業毎のKY活動が不十分であった。	×	4、安全衛生教育の計画的推進 ・作業開始のKYTの実施 ・技術講習等の受講計画の作成と計画の実施 ・作業マニュアルの作成 ・入社時に新人者教育の実施	受講計画作成		玉掛 作業マニュアルの作成		作業開始時KYT		フォークリフト		新人者教育			
交通労働災害防止対策 ・交通労働災害防止担当者の職務と権限が明確になっていない。	△	5、交通労働災害防止対策 ・安全衛生管理規程の改正(交通労働災害防止担当者の職務権限の明確化) ・車両等の法定点検の計画的実施	安全衛生管理規程の改正		デジタコ、運転日報等チェック		評価対策		デジタコ、運転日報等のチェック		評価対策		デジタコ、運転日報等のチェック	
安全衛生活動の推進 ・安全衛生パトロールを定期的に開催している	○	6、安全衛生活動の活性化 ・経営トップによる職場パトロールの実施を継続 ・職場の安全点検	社長パトロール		社長パトロール 職場の安全点検		社長パトロール		社長パトロール		社長パトロール		社長パトロール	

リスクアセスメント実施一覧表

リスクアセスメント対象職場	1～3の実施担当者の実施日		4～6の実施担当者の実施日		7の実施担当者の実施日	
ダンプトラックの積み込み、積み下ろし作業、ダンプの点検作業	藤井 佳宏	平成30年4月*日	藤井 佳宏	平成30年8月*日	藤井 佳宏	平成30年12月*日

責任者	管理者
(藤井和)	(藤井佳)

1, 作業名 (機械/設備)	2, 危険性又は有害性と発生のおそれのある災害	3, 既存の災害防止対策	4, リスクの見積もり			5, リスク低減対策案	6, 措置後のリスクの見積もり			7, 対応措置	
			重篤度	発生可能性	優先度		重篤度	発生可能性	優先度	対策実施日	次年度検討事項
積み込み、積み下ろし作業	積み込み時に回転シートより高く積んだ為、走行中に積み荷が荷台から落下した	積み込み後、荷ならしを行う	○	△	B	走行前に荷台の状況をチェックする	○	○	B	H30年*/*	年一回の乗務員ミーティングでダンプ作業の講習を行う
	前回の積み下ろし時に後板と荷台の間に石が挟まり隙間が開いた状態で積み込みをしたため隙間から積み荷が落下した	積み込む前に車輛の周り一周し、異常がないか確認	○	△	B	積み込み時の作業手順を明確にする	○	○	B	H30年*/*	年一回の乗務員ミーティングでダンプ作業の講習を行う
	積み下ろし後ダンプを上げたまま走行したため電線に接触し、電線が切れた	格納スイッチを取り付け、室内へパトライトをつける	×	○	A	ダンプ作業の作業手順を明確にする	×	○	A	H30年*/*	年一回の乗務員ミーティングでダンプ作業の講習を行う
	回転シートを広げたまま走行した為対向車とシートが接触した	走行時は常に上げた状態にしておく	×	○	A	ダンプ作業の作業手順を明確にする	×	○	A	H30年*/*	年一回の乗務員ミーティングでダンプ作業の講習を行う
	荷台から降りる際に足を滑らせ、作業者が落下した	滑りにくい安全靴を着用する	×	△	A	昇降台の設置	○	○	A	H30年*/*	年一回の乗務員ミーティングでダンプ作業の講習を行う
	傾斜がある所でダンプアップした為、車両がバランスを崩し、横転した。	路面の状況をよく確認する	×	△	A	傾斜のある場所では絶対にダンプアップしない	×	△	A	H30年*/*	年一回の乗務員ミーティングでダンプ作業の講習を行う
ダンプの点検作業	ダンプのグリースアップの為、荷台を上げて潜っていたらダンプが降下して挟まれた	ストッパーを必ずあげておく	×	△	B	備え付けのストッパーの点検も行う	×	△	B	H30年*/*	年一回の乗務員ミーティングでダンプ作業の講習を行う

●災害の重篤度 ×=致命的・重大 △=中程度 ○=軽度 ●発生可能性 ×=頻繁・可能性が高いか比較的高い △=時々・可能性はある ○=ほとんどない・可能性が低い
 ●優先度 A=直ちに解決すべき又は重大はリスクがある。 B=速やかにリスク低減措置を講ずる必要のあるリスクがある。 C=必要に応じてリスク低減装置を実施すべきリスクがある。

リスクアセスメント実施一覧表

リスクアセスメント対象職場	1～3の実施担当者と実施日		4～6の実施担当者と実施日		7の実施担当者と実施日	
ウイング車の積み込み、積み下ろし作業、及びウイングの操作、運転	藤井 佳宏	平成30年4月*日	藤井 佳宏	平成30年8月*日	藤井 佳宏	平成30年12月*日



責任者	管理者
藤井和	藤井佳

1, 作業名 (機械/設備)	2, 危険性又は有害性と発生のおそれのある災害	3, 既存の災害防止対策	4, リスクの見積もり			5, リスク低減対策案	6, 措置後のリスクの見積もり			7, 対応措置	
			重篤度	発生可能性	優先度		重篤度	発生可能性	優先度	対策実施日	次年度検討事項
ウイング車の積み込み、積み下ろし作業	フォークリフトのマストを高く上げたままトラックへ近づいた為、ウイングとフォークリフトが接触	必要以上にマストを高くあげない	△	△	B	一度フォークリフトから降りて自分の目で確認をする	△	○	B	H30年*/*	年一回の乗務員ミーティングで安全確認の講習を実施
	荷を高く積み上げたままトラックへ積み込み、荷がバランスを崩して転倒し反対側のウイングへ接触した	荷を重ねたまま積み込みしない	△	△	B	どうしても重ねる場合は荷締めをする	△	○	B	H30年*/*	年一回の乗務員ミーティングでフォークリフトでの積み込み作業の講習を実施
	積み込み作業中、作業者が足を滑らせ荷台から転落した	ヘルメットの完全着用及び滑りにくい安全靴の着用	×	△	A	必要時以外は荷台へ上がらない	×	△	A	H30年*/*	年一回の乗務員ミーティングで安全についての講習を実施
	荷台へ上がる際にアオリに足を掛けて上がっていたら足を踏み外し作業者が落下した	滑りにくい安全靴の着用	×	△	B	移動式の階段を使用する	×	○	B	H30年*/*	年一回の乗務員ミーティングで高所作業時の講習を実施
ウイングの操作	周りをよく確認せずにウイングの操作をした為、倉庫の屋根にウイングが接触した	ウイングを操作する前に車輻の周りをよく確認する	△	△	B	周りだけではなく、建物の高さも確認する	△	○	B	H30年*/*	乗務員への反復教育を実施する
	ウイングを開いたまま走行して周囲の施設に接触	運転席に警告ランプを取り付ける	△	△	A	警告ランプだけでなく、警告ブザーも取り付ける	△	○	B	H30年*/*	乗務員への反復教育を実施する
ウイング車の運転	強風時に橋の上を走行中、突風で車両が横転した	強風時は速度を十分に落として走行する	×	○	B	橋の上など影響を受け易い路線は極力避けて運行する	×	○	B	H30年*/*	年一回の乗務員ミーティングで高所作業時の講習を実施

●災害の重篤度 ×=致命的・重大 △=中程度 ○=軽度 ●発生可能性 ×=頻繁・可能性が高いか比較的高い △=時々・可能性はある ○=ほとんどない・可能性が低い
 ●優先度 A=直ちに解決すべき又は重大はリスクがある。 B=速やかにリスク低減措置を講ずる必要のあるリスクがある。 C=必要に応じてリスク低減装置を実施すべきリスクがある。

リスクアセスメント実施一覧表

リスクアセスメント対象職場	1～3の実施担当者の実施日		4～6の実施担当者の実施日		7の実施担当者の実施日	
バルク車への積み込み作業及び荷卸し作業	藤井 佳宏	平成30年4月*日	藤井 佳宏	平成30年8月*日	藤井 佳宏	平成30年12月*日


責任者	管理者
	

1, 作業名 (機械/設備)	2, 危険性又は有害性と 発生のおそれのある災害	3, 既存の災害防止 対策	4, リスクの見積もり			5, リスク低減対策案	6, 措置後のリスク の見積もり			7, 対応措置	
			重篤度	発生可能性	優先度		重篤度	発生可能性	優先度	対策実施日	次年度検討事項
積み込み作業	フォークリフトを使ってトランスバックの解体作業中、リフトマンに誘導中、誤ってトランスバックが作業者に接触しタンク内へ転落した	常にリフトマンから見える位置にいる	×	○	A	安全帯の使用及び作業前にリフトマンとの打ち合わせを行う	×	○	A	H30*/*	年一回の乗務員ミーティングで安全作業の講習を行う
	タンクからはしごを使い前向きに降りていたら足を滑らせ転落した	必ず後ろ向きに降りる	×	△	A	滑りにくい安全靴の着用	×	○	A	H30*/*	年一回の乗務員ミーティングで安全作業の講習を行う
	胸ポケットに物を入れていた為、誤ってタンク内へ落下した	積み込み中はポケットに物を入れない	○	△	B	バルク車積み込み時の作業手順を明確にする	○	○	B	H30*/*	年一回の乗務員ミーティングでバルク作業手順の講習を行う
	タンク上部の蓋を開けたままトラックを動かした為、周囲の柱に激突し、柱と蓋が破損した	トラックを動かす時は必ず閉める	△	△	B	発進前に再度確認する	△	○	B	H30*/*	年一回の乗務員ミーティングでバルク作業手順の講習を行う
荷卸し作業	上を確認せずにブームを上昇させたため電線に接触し電線が切断した	作業前に必ず確認する	△	×	A	バルク作業手順書を明確にし、再度確認する	△	△	A	H30*/*	年一回の乗務員ミーティングでバルク作業手順の講習を行う
	ブームを上昇させたままトラックを前進させた為ブームが農場のタンクに接触し、タンクとブームが破損した	トラックを動かす時は必ずブームを収納する	△	×	A	トラックを動かす時は走行状態と同じにする	△	△	A	H30*/*	年一回の乗務員ミーティングでバルク作業手順の講習を行う
	荷卸しの為農場のタンクに上昇中作業者が足を滑らせ落下した	滑りにくい靴を履く	×	△	A	安全帯を使用する	×	△	A	H30*/*	年一回の乗務員ミーティングで安全作業の講習を行う
	荷卸し後に掃除中、掃除窓から指を入れたためスクリュウに巻き込まれ指を切断した	スクリュウ回転中は絶対に指を入れない	×	○	A	スクリュウ内の掃除はエンジンを止めて行う	×	○	A	H30*/*	年一回の乗務員ミーティングで安全作業の講習を行う
	ブーム先端が投入タンク口のセンターからずれていた為、荷がこぼれた	必ずセンターに合わせて荷卸しを開始する	○	△	B	バルク作業手順書を明確にし、再度確認する	○	△	B	H30*/*	年一回の乗務員ミーティングでバルク作業手順の講習を行う

●災害の重篤度 ×=致命的・重大 △=中程度 ○=軽度 ●発生可能性 ×=頻繁・可能性が高いか比較的高い △=時々・可能性がある ○=ほとんどない・可能性が低い
 ●優先度 A=直ちに解決すべき又は重大はリスクがある。 B=速やかにリスク低減措置を講ずる必要のあるリスクがある。 C=必要に応じてリスク低減装置を実施すべきリスクがある。

リスクアセスメント実施一覧表

リスクアセスメント対象職場	1～3の実施担当者の実施日		4～6の実施担当者の実施日		7の実施担当者の実施日	
パワーゲート付きトラックへの積み込み、積み下ろし作業、及び運搬作業	藤井 佳宏	平成30年4月*日	藤井 佳宏	平成30年8月*日	藤井 佳宏	平成30年12月*日

責任者	管理者
	

1, 作業名 (機械/設備)	2, 危険性又は有害性と発生のおそれのある災害	3, 既存の災害防止対策	4, リスクの見積もり			5, リスク低減対策案	6, 措置後のリスクの見積もり			7, 対応措置	
			重篤度	発生可能性	優先度		重篤度	発生可能性	優先度	対策実施日	次年度検討事項
積み込み、積み下ろし作業	パワーゲートの操作を誤り、作業者が挟まれる	パワーゲートの操作手順を再確認する	×	○	A	パワーゲート作動中は近づかない	×	△	A	H30年*/*	年一回の乗務員ミーティングでパワーゲートの作業手順を徹底する
	パワーゲートが作動中、作業者がバランスを崩しゲートから落下した	パワーゲート作動中は細心の注意を払う	×	△	A	簡易式の柵を設置する	×	△	A	H30年*/*	年一回の乗務員ミーティングで安全に関する講習をする
	パワーゲートが雨で濡れていたため作業者が滑って転倒した	滑りにくい靴を履く	×	△	A	軒下での作業の徹底	×	△	A	H30年*/*	年一回の乗務員ミーティングで安全に関する講習をする
	キャストーストッパーを出していなかったため傾斜でラックが転がり荷物が転落した	必ず出して作業するようにする	○	○	B	作業手順を再度見直し確実に作業を行う	○	○	C	H30年*/*	年一回の乗務員ミーティングでパワーゲートの作業手順を徹底する
	パワーゲートを格納せずに発進したため周囲の施設が破損した	格納確認スイッチと室内へパトライトを付ける	△	○	C	作業手順を明確にし再度見直しを徹底する	△	○	C	H30年*/*	年一回の乗務員ミーティングでパワーゲートの作業手順を徹底する
	ラッシングベルトで荷縛していたが不十分だったため走行中に外れ、ラックが転がり荷物が破損した	荷縛後、再度確認する	○	△	C	・二重に荷縛する ・締機を定期的に点検する	○	○	C	H30年*/*	年一回の乗務員ミーティングで荷締めについての作業手順を徹底する
納品先への運搬作業	納品先で違う納品先の荷物を卸した	卸す前に納品先、品名を確認する	○	○	B	・卸す前に日報へ記入し思い込みによるミス無くす	○	△	B	H30年*/*	乗務員へ必ず確認するように反復教育を行う
	納品先でトラックから指定の置き場まで運んでいたら手から滑り落下し荷物が破損した	必ず一箱づつ運ぶようにする	○	△	B	・滑り止めの手袋の着用 ・重い場合は台車を使用する	○	△	B	H30年*/*	乗務員へ必ず確認するように反復教育を行う

●災害の重篤度 ×=致命的・重大 △=中程度 ○=軽度 ●発生可能性 ×=頻繁・可能性が高いか比較的高い △=時々・可能性がある ○=ほとんどない・可能性が低い
●優先度 A=直ちに解決すべき又は重大はリスクがある。 B=速やかにリスク低減措置を講ずる必要のあるリスクがある。 C=必要に応じてリスク低減装置を実施すべきリスクがある。

リスクアセスメント実施一覧表

リスクアセスメント対象職場	1～3の実施担当者の実施日		4～6の実施担当者の実施日		7の実施担当者の実施日	
フォークリフトでの運搬作業・トラックへの積み込み、積み下ろし作業	藤井 佳宏	平成30年4月*日	藤井 佳宏	平成30年8月*日	藤井 佳宏	平成30年12月*日

責任者	管理者
	

1, 作業名 (機械/設備)	2, 危険性又は有害性と発生のおそれのある災害	3, 既存の災害防止対策	4, リスクの見積もり			5, リスク低減対策案	6, 措置後のリスクの見積もり			7, 対応措置	
			重篤度	発生可能性	優先度		重篤度	発生可能性	優先度	対策実施日	次年度検討事項
フォークリフトでの運搬作業	製品を高く積んでいるのに前進走行し、前方にいた他の作業者に激突	背高の荷物を運ぶ時はバックで走行する	×	×	A	・バックでの移動を作業手順に明記 ・高く積まないようにする	×	△	B	H30*/*	年1回のフォークリフト運転講習で後退走行の徹底をする
	マストを高く上げたまま急旋回したのでフォークリフトが横転した	移動時はマストは低く	×	△	A	・マストが高い場合はゆっくり移動する	×	○	C	H30*/*	年1回のフォークリフト運転講習で移動時の注意を徹底をする
	スピードの出すぎにより死角から出てきた作業者に激突	速度制限を設定している	×	△	B	・制限速度を明確に表示する	×	△	C	H30*/*	年1回のフォークリフト運転講習で走行時の注意を徹底をする
	製品を運搬中に急旋回した為、積荷が崩れ周りにいた作業者が下敷きになる	急のつく動きは禁止	×	△	B	・崩れないようにロープ等で縛る	×	△	B	H30*/*	年1回のフォークリフト運転講習で走行時の注意を徹底をする
	後方確認を怠り、そのままバックしたので後方に居た作業者に接触	動く時は周囲を確認する	×	×	A	・パトライトとバックブザーをフォークリフトに装着する	×	△	B	H30*/*	年1回のフォークリフト運転講習で後退走行の徹底をする
トラックへの積み込み・荷卸し作業	製品を積み込もうとした時、重心のずれから製品が荷崩れし、落下した製品が他の作業者に激突	重心のずれのある荷をフォークリフトで積み込む際は注意するよう教育する	×	△	A	・重心にずれのある荷の積み込みはパレットに載せて積み込む	×	△	B	H30*/*	年1回のフォークリフト運転講習で操作等の徹底をする
	トラックに積み込む際、マストを前傾し過ぎフォークリフトがバランスを崩し、トラックと接触	吊り荷の許容荷重に注意	○	○	B	・フォークリフトの許容荷重を明確に表記する	○	○	C	H30*/*	年1回のフォークリフト運転講習で操作等の徹底をする
	荷台へ上がる際、マストのステップを使用して昇る際、足を滑らせ転落する危険がある	滑り止めの靴を履く	×	△	B	・滑り止めのテープを捲く	×	△	B	H30*/*	年1回のフォークリフト運転講習で安全について徹底をする
	フレコンを吊る際、フレコンのロープが切れ落下し荷台に居た作業者が挟まれる	吊り荷には近づかない	×	○	B	・なるべく吊り荷には近づかないようにする	×	△	C	H30*/*	年1回のフォークリフト運転講習で操作等の徹底をする
	背高の荷を積み込む際、荷台に居たトラック運転手が荷物の間に挟まれる	複数人で積み込む際は事前に打ち合わせを	×	△	B	・フォークリフトの運転者から常に見える位置に居るようにする	×	○	C	H30*/*	トラック運転手への反復教育実施

●災害の重篤度 ×=致命的・重大 △=中程度 ○=軽度 ●発生可能性 ×=頻繁・可能性が高いか比較的高い △=時々・可能性がある ○=ほとんどない・可能性が低い
 ●優先度 A=直ちに解決すべき又は重大はリスクがある。 B=速やかにリスク低減措置を講ずる必要のあるリスクがある。 C=必要に応じてリスク低減装置を実施すべきリスクがある。

リスクアセスメント実施一覧表

リスクアセスメント対象職場	1～3の実施担当者の実施日		4～6の実施担当者の実施日		7の実施担当者の実施日	
平ボテ車への積み込み、積み下ろし作業及び、運転作業	藤井 佳宏	平成30年4月*日	藤井 佳宏	平成30年8月*日	藤井 佳宏	平成30年12月*日

責任者	管理者
	

1, 作業名 (機械/設備)	2, 危険性又は有害性と発生のおそれのある災害	3, 既存の災害防止対策	4, リスクの見積もり			5, リスク低減対策案	6, 措置後のリスクの見積もり			7, 対応措置	
			重篤度	発生可能性	優先度		重篤度	発生可能性	優先度	対策実施日	次年度検討事項
積み込み、積み下ろし作業	クレーンにて積み込み中、吊り荷の重心のずれから吊り荷がバランスを崩し荷台にいた作業者に接触	吊り荷へは近寄らない	×	△	A	・危険性のある場合は荷台へ上がらない	×	○	A	H30年*/*	年一回の乗務員ミーティングで安全作業についての講習を行う
	荷締め作業時に荷台を歩行中にワイヤーに引っかかり作業者が転倒した	特に無し	×	△	A	・荷台の整理整頓 ・荷台を歩く時は慎重に	×	○	A	H30年*/*	年一回の乗務員ミーティングで安全作業についての講習を行う
	シート掛け作業中にアオリから足を滑らせ作業者が転落した	滑りにくい靴を履く	×	△	A	・作業台を使用する ・アオリの上を歩かない	×	△	A	H30年*/*	年一回の乗務員ミーティングで安全作業についての講習を行う
	荷締め作業中にワイヤーが切れ作業者に接触した	・傷やほつれのあるワイヤーは使用しない	×	○	A	・機器の定期点検を行う	×	○	A	H30年*/*	年一回の乗務員ミーティングで安全作業についての講習を行う
	重量物を人力で積み込み中、無理な姿勢で持ち上げた為、腰を痛めた	正しい姿勢で作業を行う	×	△	B	・重い荷物の積み込みは複数人で行う	×	△	B	H30年*/*	年一回の乗務員ミーティングで安全作業についての講習を行う
運転作業	ダンボール等を荷台に置いていた為、走行中に飛んでいき、後続車に接触した	荷台の整理整頓	△	○	C	・軽い物は荷締めをするもしくはシート掛けをする	△	○	C	H30年*/*	年一回の乗務員ミーティングで安全運行についての講習を行う
	荷物を高く積んで積載していた為急ハンドルを切ったら荷台から荷物が落下した	落下する可能性のある場合はシート掛けをする	△	△	B	・荷物は高く積まない ・荷締めを行う	△	○	B	H30年*/*	年一回の乗務員ミーティングで安全運行についての講習を行う
	荷台のキャッチを閉め忘れた為、旋回した所遠心力で開き、対向車に接触した	必ずキャッチは前後とも閉める	△	△	B	出発前に再度、車両を一周し確認する	△	△	B	H30年*/*	年一回の乗務員ミーティングで安全運行についての講習を行う

●災害の重篤度 ×=致命的・重大 △=中程度 ○=軽度 ●発生可能性 ×=頻繁・可能性が高いか比較的高い △=時々・可能性がある ○=ほとんどない・可能性が低い
●優先度 A=直ちに解決すべき又は重大はリスクがある。 B=速やかにリスク低減措置を講ずる必要のあるリスクがある。 C=必要に応じてリスク低減装置を実施すべきリスクがある。